

平成21年6月期 第3四半期決算短信

平成21年5月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ビューティ花壇

コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 小田敬史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 高山浩司

TEL 03-5776-5850

四半期報告書提出予定日 平成21年5月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年6月期第3四半期の連結業績(平成20年7月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年6月期第3四半期	2,829	—	4	—	6	—	△27	—
20年6月期第3四半期	2,876	—	71	—	74	—	33	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年6月期第3四半期	△1,104.04	—
20年6月期第3四半期	1,370.74	1,321.24

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年6月期第3四半期	1,272	467	34.9	18,084.27
20年6月期	1,302	513	37.1	19,708.56

(参考) 自己資本 21年6月期第3四半期 444百万円 20年6月期 483百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年6月期	—	0.00	—	342.00	342.00
21年6月期	—	0.00	—		
21年6月期(予想)				345.00	345.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年6月期の連結業績予想(平成20年7月1日～平成21年6月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	5.0	59	△44.6	60	△43.5	28	0.0	1,148.72

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年6月期第3四半期	24,574株	20年6月期	24,540株
② 期末自己株式数	21年6月期第3四半期	0株	20年6月期	0株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年6月期第3四半期	24,553株	20年6月期第3四半期	24,448株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記数値と異なる場合があります。
 ・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(業績の状況)

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米国発の世界的な金融市場の混乱に端を発した株式・為替市場の大幅な変動、企業収益の減少や個人消費の低迷による景気の減速感が強まるなか推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループの売上高は、その79.7%を占める主力の生花祭壇事業が堅調に推移し、景気の減速に伴う生花小売店への卸売販売、法人のギフト生花の需要やブライダル装花の受注が減少した結果、2,829,650千円となりました。

売上総利益については、生花の卸売単価が低価格で推移したことによる仕入原価の低減がある一方で、技術者の採用・増強による人件費の増加等により、598,913千円となりました。

販売費及び一般管理費については、役員報酬の減額や業務委託費を抑制したものの、内部統制の対応に伴う人件費や顧問料等の増加により、594,583千円となりました。

その結果、営業利益は4,329千円となりました。また、経常利益は6,802千円、四半期純損失は法人税等調整額等により27,017千円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、2,256,286千円となりました。当社が属する葬祭業界におきましては、景気動向の直接的影響は受けにくいとされる分野で、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」(サンプル調査)によると、葬儀業の平成20年7月から12月の売上高は前年比で2.6%増、件数も2.2%増と増加傾向にありました。しかしながら、平成21年1月から2月の葬儀業の売上高は87,254百万円(前年比1.8%減)、件数は59,212件(前年比2.2%減)と減少に転じた結果、平成20年7月から平成21年2月の累計期間の売上高は前年比で332,849百万円(前年比1.4%増)、件数は221,623件(前年比1.0%増)と若干減速しました。厚生労働省の人口動態統計速報(平成21年2月分)によると、平成21年1月から2月の死亡数は210,503人(前年比1.9%減)と同じく減少となっております。これは、平成21年2月の死亡数が95,246人と前年の103,169人より7.7%減少したことによるものですが、平成20年2月の死亡数が前年の平成19年2月と比較して11.6%増と高い水準にあったことが一因となっております。当社の当第3四半期連結累計期間における国内の生花祭壇の受注件数は前年より99件増加して12,152件(前年比0.8%増)となりました。生花祭壇事業は、収益の向上を目指して単価の高い社葬・大型葬の獲得に取り組んでおり、当第3四半期連結累計期間における受注件数は前年より15件増加して103件(前年比17.0%増)となりました。生花単価が安価に推移したことやロス本数の比率も0.08%と前年同期より0.86ポイント改善したものの、技術者の採用・増強による人件費の増加等により、売上総利益率は前年同期より0.3ポイント下落しました。その結果、営業利益は330,417千円となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、483,383千円となりました。景況感を反映した消費者の生活防衛意識が急速に高まり、嗜好品である生花の購入を控える傾向が続いています。東京都中央卸売市場「市場統計情報」(平成21年3月)によると、平成20年7月から平成21年3月の切花累計の数量は前年比で0.8%減、金額では7.8%減とマイナスになっております。法人においても、収益が圧迫され経費削減のおり、胡蝶蘭等の法人用ギフト生花の需要が大きく落ち込みました。同統計によるラン鉢の数量も前年比で7.3%減、金額では12.6%減と大きく減少しています。また当期は海外の生産者からの輸入比率を高めるべく、海外調達にかかわる人員を増員し対応しておりますが、当第3四半期連結累計期間における輸入本数比率は21.7%と前年同期の22.0%より0.3%減少しました。これは台湾からの輸入本数が前年同期比で12.1倍と大きく増えたものの、主力の菊類の輸入先である中国が海南島の天候不順より14.1%減と十分な数量の輸入品を確保できなかったことによるものです。需要不振による生花単価の下落は生花祭壇事業の売上総利益率の改善に貢献するものの、生花卸売事業には売上総利益の減少につながり、また生花卸売事業の外部販売が伸び悩んだ結果、営業利益は60,145千円となりました。

(その他事業)

その他事業は、ブライダル事業及びプランツスケープ事業からなり、売上高は89,979千円となりました。営業損失は40,772千円となっております。結婚式場業は少子化と景気悪化の影響を受けており、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」(サンプル調査)によると、平成20年6月から平成21年2月の結婚式場業の売上高は146,605百万円(前年比1.5%減)、件数は49,823件(前年比4.3%減)と減少しています。晩婚化に伴い資金力のある30~40代、いわゆる「アラフォー世代」のマーケットが拡大しているほか、「こだわり」に対応できるハウスウェディングの人气が高まり、1件当たりの単価は2.9%上昇しているため、売上高の減少幅は小さいものの、件

数の減少が目立ってきております。ブライダル事業を請け負う連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおいては、熊本県における主力のホテルの婚礼件数が減少しており、また個人消費の低迷による生花アレンジメントの店舗販売の減少に伴い、売上高と売上総利益がともに減少し、営業損失が拡大しました。

※ 前年同期比較に関する情報は参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ29,497千円減少し、1,272,740千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ33,767千円増加し、704,427千円となりました。これは主に有価証券60,000千円の増加や受取手形及び売掛金の増加25,028千円があった一方で、現金及び預金の減少80,220千円等によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ63,264千円減少し、568,312千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ16,815千円増加し、805,388千円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ140,935千円増加し、591,605千円となりました。これは主に短期借入金の増加160,000千円等によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ124,120千円減少し、213,782千円となりました。これは主に社債の減少60,000千円と長期借入金の減少55,095千円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ46,312千円減少し、467,352千円となりました。これは主に少数株主持分の減少7,066千円によるものと利益剰余金の減少35,500千円等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ80,220千円減少し、195,462千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は26,521千円となりました。これは、主に減価償却費の計上49,797千円や売上債権の増加30,494千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は82,962千円となりました。これは、主に差入保証金の差入による支出52,656千円や貸付けによる支出49,200千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は34,606千円となりました。これは、主に短期借入れによる収入200,000千円や社債の発行による収入50,000千円等があった一方で、長期借入金の返済による支出105,095千円や社債の償還による支出100,000千円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

さらなる景気の減速感が強まるなか、一層の個人消費の減退と企業間競争の激化が予想され、当社事業をとりまく環境は今後一段と厳しくなると思われませんが、業績は概ね予想通りに推移しており、現時点では平成21年2月2日に発表いたしました平成21年6月期通期業績予想からの修正は行っておりません。

当社グループは生花需要の減退を背景として生花単価が安価に推移していることを勘案して、期初に注力することを計画しておりました生花卸売事業ではなく、仕入原価の低減が見込める生花祭壇事業に経営資源を集中することで収益率の改善・向上を目指しております。生花祭壇事業においては、関東及び関西地区における受注活動を強化しており、また徹底した経費削減対策に取り組んでいくことで業績確保を目指してあらゆる努力をしてみたいと存じます。

上記予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、商品・原材料・貯蔵品については主として最終仕入原価法による原価法、仕掛品については主として個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、それぞれ、商品・原材料・貯蔵品については主として最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、仕掛品については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

なお、この変更による損益への影響はありません。

③連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。

なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	195,462	275,682
受取手形及び売掛金	375,308	350,280
有価証券	60,000	—
商品	3,638	3,482
原材料及び貯蔵品	12,217	13,731
仕掛品	343	1,080
その他	63,740	32,325
貸倒引当金	△6,283	△5,922
流動資産合計	704,427	670,660
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	123,566	192,334
減価償却累計額	△45,518	△40,033
建物及び構築物(純額)	78,048	152,300
工具、器具及び備品	135,212	129,571
減価償却累計額	△87,530	△72,169
工具、器具及び備品(純額)	47,682	57,401
土地	127,445	127,445
その他	9,592	13,349
減価償却累計額	△8,014	△7,562
その他(純額)	1,577	5,786
有形固定資産合計	254,753	342,935
無形固定資産		
のれん	7,902	10,537
その他	73,808	96,781
無形固定資産合計	81,711	107,318
投資その他の資産		
その他	250,651	206,822
貸倒引当金	△18,804	△25,498
投資その他の資産合計	231,847	181,323
固定資産合計	568,312	631,577
資産合計	1,272,740	1,302,237

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	83,252	63,506
短期借入金	160,000	—
未払法人税等	1,150	33,404
賞与引当金	25,195	—
株主優待引当金	424	3,500
その他	321,583	350,257
流動負債合計	591,605	450,669
固定負債		
社債	120,000	180,000
長期借入金	70,860	125,955
退職給付引当金	8,678	5,496
その他	14,244	26,451
固定負債合計	213,782	337,903
負債合計	805,388	788,573
純資産の部		
株主資本		
資本金	209,210	209,040
資本剰余金	129,210	129,040
利益剰余金	113,280	148,781
株主資本合計	451,700	486,861
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	482	—
為替換算調整勘定	△7,780	△3,213
評価・換算差額等合計	△7,297	△3,213
少数株主持分	22,949	30,016
純資産合計	467,352	513,664
負債純資産合計	1,272,740	1,302,237

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)
売上高	2,829,650
売上原価	2,230,737
売上総利益	598,913
販売費及び一般管理費	※1 594,583
営業利益	4,329
営業外収益	
受取利息	1,854
受取地代家賃	6,628
その他	6,559
営業外収益合計	15,042
営業外費用	
支払利息	4,888
不動産賃貸費用	3,425
その他	4,253
営業外費用合計	12,568
経常利益	6,802
特別損失	
支社閉鎖損失	2,314
その他	284
特別損失合計	2,598
税金等調整前四半期純利益	4,203
法人税、住民税及び事業税	31,972
法人税等調整額	1,839
法人税等合計	33,811
少数株主損失(△)	△2,499
四半期純損失(△)	△27,107

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	4,203
減価償却費	49,797
のれん償却額	2,634
長期前払費用償却額	752
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6,270
賞与引当金の増減額 (△は減少)	25,469
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,181
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	△3,075
受取利息	△1,854
受取賃貸料	△6,628
助成金収入	△2,220
支払利息	4,888
支社閉鎖損失	2,314
売上債権の増減額 (△は増加)	△30,494
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,094
その他の資産の増減額 (△は増加)	△4,997
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	2,786
仕入債務の増減額 (△は減少)	21,347
その他の負債の増減額 (△は減少)	△35,729
その他	4,316
小計	32,514
利息の受取額	2,701
賃貸料の受取額	4,342
助成金の受取額	2,220
利息の支払額	△4,990
支社閉鎖による支出	△2,314
法人税等の支払額	△60,994
営業活動によるキャッシュ・フロー	△26,521
投資活動によるキャッシュ・フロー	
貸付けによる支出	△49,200
貸付金の回収による収入	27,496
有形及び無形固定資産の取得による支出	△7,099
投資有価証券の取得による支出	△5,712
差入保証金の差入による支出	△52,656
差入保証金の回収による収入	4,209
投資活動によるキャッシュ・フロー	△82,962

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	200,000
短期借入金の返済による支出	△40,000
長期借入れによる収入	50,000
長期借入金の返済による支出	△105,095
社債の発行による収入	50,000
社債の償還による支出	△100,000
株式の発行による収入	340
配当金の支払額	△8,392
その他	△12,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	34,606
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,342
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△80,220
現金及び現金同等物の期首残高	275,682
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 195,462

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

	生花祭壇事業 (千円)	生花卸売事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,256,286	483,383	89,979	2,829,650	—	2,829,650
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	704,214	35,511	739,726	△739,726	—
計	2,256,286	1,187,598	125,491	3,569,376	△739,726	2,829,650
営業利益(又は営業損失(△))	330,417	60,145	△40,772	349,790	△345,460	4,329

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

- (1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花
(2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花
(3) その他……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,753,961	75,688	2,829,650	—	2,829,650
(2) セグメント間の内部売上高又は振 替高	—	54,256	54,256	△54,256	—
計	2,753,961	129,944	2,883,906	△54,256	2,829,650
営業利益	342,264	6,140	348,404	△344,075	4,329

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域
アジア……台湾

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年7月1日至平成21年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

科目	前年同四半期 (平成20年6月期 第3四半期)
	金額(千円)
I 売上高	2,876,601
II 売上原価	2,262,514
売上総利益	614,087
III 販売費及び一般管理費	542,572
営業利益	71,514
IV 営業外収益	
1. 受取利息	1,757
2. 受取地代家賃	6,446
3. その他	1,505
V 営業外費用	
1. 支払利息	4,048
2. 社債保証料	795
3. 賃貸不動産費用	1,267
4. その他	1,010
経常利益	74,101
VI 特別損失	
1. 固定資産除却損	2,593
税金等調整前四半期純利益	71,508
税金費用	49,751
四半期純利益	33,512

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

区分	前年同四半期 (平成20年6月期 第3四半期) 金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	71,508
減価償却費	53,277
のれん償却額	2,634
長期前払費用償却費	833
貸倒引当金の増減額(△は減少)	11,415
賞与引当金の増減額(△は減少)	20,628
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,099
受取利息及び受取配当金	△1,757
支払利息	4,048
固定資産除売却損益(△は益)	2,593
売上債権の増減額(△は増加)	△99,469
たな卸資産の増減額(△は増加)	6,183
その他資産の増減額(△は増加)	758
その他投資の増減額(△は増加)	△16,704
仕入債務の増減額(△は減少)	29,514
その他負債の増減額(△は減少)	△19,482
その他	136
小計	69,218
利息及び配当金の受取額	1,885
利息の支払額	△5,056
法人税等の支払額	△87,810
営業活動によるキャッシュ・フロー	△21,762
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
貸付金の貸付による支出	△2,920
貸付金の回収による収入	10,543
投資有価証券の取得による支出	△3,000
固定資産の取得による支出	△97,794
固定資産の売却による収入	554
差入保証金の差入による支出	△5,025
差入保証金の回収による収入	13,417
その他	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84,233
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	100,000
長期借入れによる収入	220,000
長期借入金の返済による支出	△12,775
社債の償還による支出	△100,000
株式の発行による収入	1,400
配当金の支払額	△42,090
その他	△12,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	154,288
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△903
V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	47,388
VI 現金及び現金同等物の期首残高	266,324
VII 現金及び現金同等物の期末残高	313,712

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

	生花祭壇事業 (千円)	生花卸売事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,185,091	588,166	103,344	2,876,601	—	2,876,601
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,692	715,766	32,391	759,851	△759,851	—
計	2,196,784	1,303,932	135,735	3,636,453	△759,851	2,876,601
営業費用	1,929,167	1,220,759	164,599	3,314,526	△509,439	2,805,087
営業利益(又は営業損失(△))	267,616	83,173	△28,863	321,926	△250,411	71,514

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

- (1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花
- (2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花
- (3) その他……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,799,314	77,287	2,876,601	—	2,876,601
(2) セグメント間の内部売上高又は振 替高	—	11,692	11,692	△11,692	—
計	2,799,314	88,979	2,888,294	△11,692	2,876,601
営業費用	2,467,934	100,535	2,568,470	236,616	2,805,087
営業利益(又は営業損失(△))	331,380	△11,556	319,823	△248,309	71,514

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

アジア……台湾

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(平成19年7月1日～平成20年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。